

ACE

Act and Communicate in English

特集

「読むこと」の 指導と評価

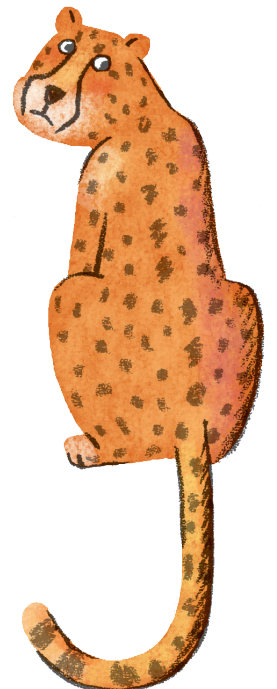
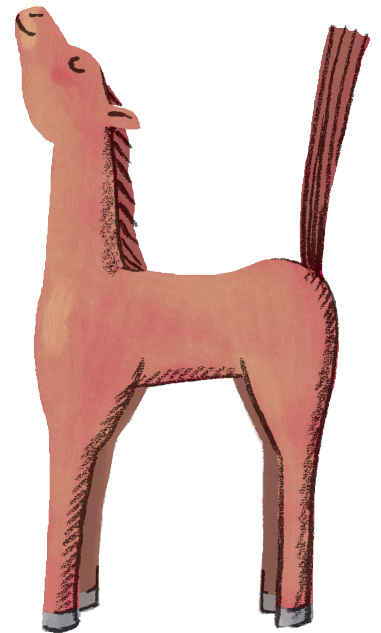
Tips for Activities!

This is my character!

◀コラム▶

音から文字へつなげる指導をしよう! (新刊紹介)

『小学校英語
だれでもできる
英語の音と文字の指導』



小学校での文字指導は「書くこと」の指導に多くの注意が払われ、「読むこと」はなんとなくできてしまうと思われがちです。しかし、音と文字をスムーズにつなげるためには、「読むこと」の指導にも方略が必要です。「読むこと」の指導のポイントや留意点について、箱崎雄子先生に解説していただきました。

「読むこと」とは？

白畑他（2019）は、「読み」について、「受身的な言語活動だとみなされる場合が多い」とした上で、最近の研究では、「①視覚を適切に利用し、②視覚から得られた情報を脳に送り込み、③様々な情報（背景、文脈／コンテキストなど）を利用し、④適切な方略（strategy）を選択して利用し、⑤処理された文（章）の構造や意味を再構築する」という「一連の能動的活動」と捉えられている、と述べています。つまり、「読むこと」とは、受動的な作業ではなく、読み手が文字情報を積極的に解釈し、能動的に内容の理解を行うことだと言えます。

私たちが英単語を見て意味を理解する際には、文字を見てその語を頭の中で発音してから意味理解に至る間接ルートと、発音せずに意味理解に至る直接ルートの2つのルートが想定されています。日本人英語学習者を対象に行われた実験では間接ルートが優先されることが報告されており（Kadota & Ishikawa, 2005）、小学校学習指導要領も音声から文字への指導を強調していることから、「簡単な語句や基本的な表現を見る→音声化できる→意味が分かる」という間接ルートのプロセスを指導者が理解しておく必要があります。

また、新たに得る知識（この場合、文字）は、すでに持っている知識（この場合、音声）と関連付けられた時に「意味学習」（Ausubel, 1963）となります。外国語活動において音声中心で学んできたことを円滑に文字の指導に繋げるためにも、「聞くこと・話すこと→読むこと→書くこと」という順序性を踏まえた上で、やり取りや発表の活動の際に文字になんとなく触れさせて、読む活動の前に十分に音に慣れ親しませておくなど、音と文字を結びつけるための工夫が重要です。

「読むこと」の目標

小学校学習指導要領に示された外国語科における「読むこと」の目標は、以下の通りです。

- ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
- イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

英語の文字の読み方には、「名称読み」（a の場合：/ei/）と「音読み」（a の場合：/æ/ や /eɪ/）がありますが、アの目標は、「活字体で書かれた文字の形の違いを識別し、文字を見てその名称を発音できること」（文部科学省 2017、下線筆者）を示しています。ここで大切なことは、この目標における「読み方」が、音読みではなく、名称読みを指しているということです。

一方、イの目標においては、「児童の学習の段階に応じて、語の中で用いられる場合の文字が示す音の読み方を指導する」（文部科学省 2017）ことが求められています。児童が語句や表現の意味を理解するためには、先に示したように、語句や表現を音声化する必要があります。児童がネコの文字付きの絵カードを見て cat と言う場合、イラストを見て反応している段階、cat の3文字を1つのかたまりとして認識し音声と結び付けている段階、c を /k/、a を /æ/、t を /t/ と1文字ずつ音声化して意味を理解している段階などが考えられます。そうした認識を踏まえて、時間がかかるかもしれませんが、文字と音を一致させる活動を継続して行い、丁寧な指導を行うことが大切です。なお、発音と綴りを関連付けて指導することは中学校で行われ、小学校では、「音声と文字とを関連付ける指導に留める」（文部科学省 2017）ことになっています。

英語を読むことができるようにするために

英語は、日本語の仮名と違い、音と文字が1対1の対応関係にありません*。現代英語では、例えば、/j/ を表す綴りは、ocean, delicious, chef, sugar, fish, succession, schwa, station, anxious のように様々あります。発音と綴りの関係を理解しておく、英語で未知の単語を音声化することもできます。

中央教育審議会（2016）は、小中の英語教育について、小学校で「音声中心で学んだことが、中学校の段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていない」ことを課題の一つとして指摘しています。中学校では、音声と綴りを関連付けて指導することが求められています。そこに繋げるには、小学校において、音声で十分に慣れ親しんだ単語や表現がまとまりのある文の中で提示された際に、イラストや写真などの視覚情報を頼りに読むなど、「読むこと」による基礎的な技能を身に付けておくことが大切です。

* 厳密には、日本語にも「は」や「へ」のように例外があります。

「読むこと」の指導上の留意点

文部科学省が全国の中学校3年生約6万人（国公立約600校）及び高等学校3年生約6万人（国公立約300校）を対象に実施した「平成29年度英語教育改善のための英語力調査」によると、小学校で学んだことの中で中学校の英語の授業で役立ったこととして、「アルファベットを読むこと」と回答した生徒が52.5%で、9つの選択肢の中で一番多い回答になっています。小学校と中学校の学びの円滑な接続のためにも、アルファベットを読むことに留まらず、音と文字を一致させるための手立てを工夫する必要があります。

1) abc Chant を使った「読むこと」の指導

アルファベットの「名称読み」の指導には、一般的に ABC Song が使われます。また、「名称読み」のおさらいをしながら「音読み」にも触れられるものとして abc Chant が使われます。いずれも、イラスト付きのアルファベットの文字のチャートを見ながら、それぞれの読み方を確認していくとよいでしょう。



指導のおおよその流れを以下に記します。

- ① CD やデジタル教科書などの音声を聞かせる。言えるところは一緒に声に出させたり、歌わせたりする。
- ② どんな音が聞こえたか、児童から引き出す。
- ③ 音声を聞きながら、歌やチャンツのリズムに合わせて発音させる。(指導者と児童で声を出すパートを分けたり、児童をグループに分けるなど、バリエーションをつける)

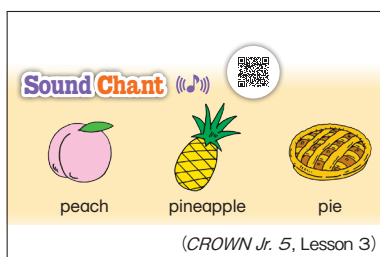
授業におけるチャンツ導入の意義に関して、Brewster & Ellis (2002) は、個々の音、強勢、リズム、イントネーションの発音練習に有効であること、既習の語彙、表現、文型を斬新かつ刺激的な方法で提示できること、学習者が既習表現を自然に楽しく反復練習することができること、などをあげています。abc Chant では、記憶に残りやすいように音楽のリズムに合わせて文字の「音読み」を聞かせ、文字の音を意識させます。

2) 単語のチャンツを使った「読むこと」の指導

peach, pineapple, pie のように初頭音(単語の語頭の音)が同じ単語を集めたチャンツを使い、リズムに乗って、楽しく何度も繰り返し発音することで、英語特有の音や、音と文字との結び付きへの気付きを促すことができます。

指導においては、次のような流れでやってみてください。

- ① チャンツを聞かせて、どんな単語が聞こえたかを言わせ、単語のイラストを指さしさせる。
- ② もう一度チャンツを聞かせた後、指導者がランダムに単語を言い、聞こえた単語のイラストを指ささせたり、指導者と一緒に発音させたりする。
- ③ 最後にチャンツに合わせて発音させる。



3) まとまりのある文の「読むこと」の指導

短い、まとまりのある英文を使って、イラストなどを頼りに全体の内容を類推する力を養うことができます。英文は、ほとんどが音声で十分に慣れ親しんだ語句・表現で構成されていることが前提です。

次のような手順で指導してみてもいいでしょう。

- ① 音声を聞かせる前にイラストを見せ、英文の内容を予測させる。
- ② 読み聞かせを行う。
- ③ 音声に合わせて、文字を目で追わせる。
- ④ 最後に、もう一度音声を聞かせ、文字を目で追うとともに、読める部分は声に出して読ませる。

この時用いる英文に、2で紹介した単語のチャンツ

で扱った単語と同じ初頭音の単語があると、2つの指導が繋がります。



おわりに

米国教育省(2003)は、良い読み手を育てるためには、①音読すること、②文字を提示すること、③読み書きに対する積極的(前向き)な姿勢(態度)を促進することが大切であると述べています。指導者の音読などに合わせて文字を指さしながら拾い読みをしたり、友だちと協力しながら読みだりすることを通して、自立した読み手を育てることを目指してみてください。

参考文献

- Ausubel, D.P.(1963). *The psychology of meaningful verbal learning*. New York: Grune and Stratton.
- Brewster, J. & Ellis, G. (2002). *The primary English teacher's guide*. Essex, England: Pearson Education.
- Kadota, S. & Ishikawa, K. (2005). Do Japanese EFL learners activate phonology in reading English words and Japanese kanji? *JACET bulletin*, 40, 55-75.
- U.S. Department of Education. (2003). *Reading tips for parents*.
- 白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則 (2019).『英語教育用語辞典 第3版』東京：大修館書店。
- 中央教育審議会 (2016).『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)』文部科学省 (2017).『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』文部科学省 (2020).『平成 29 年度英語教育改善のための英語力調査』



箱崎雄子(はこざき ゆうこ)

大阪教育大学教授。通訳学校や在ボストン日本国総領事館勤務を経て現職。小学校における英語音声指導法について研究する傍ら、教員養成にも携わる。

『小学校英語内容論入門』(研究社)分担著者。

高学年では「読むこと」の指導に加え、評価も求められるようになり、戸惑われている先生がたま多いのではないのでしょうか。無理なく取り組める活動例を紹介していただき、その中で「読むこと」をどのように評価したらよいのか、その考え方や方法について田縁眞弓先生に解説していただきました。

「読むこと」の評価を考えると最初に押さえておくべきことは、箱崎先生の記事にもあるように、「読むこと」の目標アは、「文字の形を認識すること」「読み方を発音すること」、イは「簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにすること」です。そのアからイへは長い道のりですが、じっくりと時間をかけ、無理なく、児童の気づきを促す活動を重ねながら形成的に評価することが肝要です。

「読むこと」の評価で大切な視点

4 技能 5 領域の中でも、読むことは個人差が一番大きく表れるところです。そもそも読みに至る過程が大変複雑なことに加えて、目標のアからイに至る過程での助けとなる音韻認識や、音から文字への指導が十分に行われていないことも原因でしょう。そのために「読めない」「わからない」と英語への苦手意識を感じ始める児童もたくさん出てきます。

そこで大切なことは、読みの指導の中でも十分な音声インプットを与えることや、丁寧な指導者のみとりとそれに伴う支援です。

さらに、アルファベットの読み方を発音できる、意味がわかるといった目標に向かって、児童自身が学びの過程を理解し、その長いプロセスの中で自ら「何ができ」「次には何を目指し」「どのように取り組むか」といった姿勢を身に付けることが大切です。

振り返り評価

「読むこと」の指導においては、丁寧な段階を設計した「振り返りシート」は欠くことのできない評価ツールとなります。児童は次の目標に向け自らの学習を見直すことが、指導者は各児童の実態を把握しながら指導改善につなげることができるでしょう。単元を越え短時間で常活動として指導が行われたり、書く指導や聞く、話す指導と統合的に取り組まれたりすることが多いために、その実施のタイミングが難しいのですが、必ず数回に一度は振り返り評価を行うようにします。また、低中学年から長い時間をかけじっくり取り組むことを前提とし、「文字のパスポート」などという名称をつけた CAN-DO リストを学年を越え持たせ、具体的に自分ができるようになったことを振り返らせることもできます。

ワークシート評価

文部科学省の事例集には、複数の単元後を通した学期末に実施する「読むこと」の評価例（「思考・判断・表現」）として、ワークシートが掲載されています。Mark という新しい友だちの自己紹介を読み、内容を理解するだけでなく、彼を喜ばせるアイデアを選ばせることで、児童の「思考・判断・表現」力の評価を試みていますが、こちらも参考になるでしょう。

「読むこと」の評価は、「すべてわかる」「正確に理解できる」ことを目指すものではないことに十分に留意の上、活動を通し指導者が丁寧にみとり、児童を励ましながらか、彼らの次の学びにつなげるものにしていきましょう。

振り返りシート例

Q アルファベットの大文字（小文字）を見てその読み方を言うことができますか。（あてはまるものに○をつけよう）

1. まだむずかしい。
2. （友だちと一緒になら）（歌を歌いながら）（数個なら）指さして言える。
3. ほとんど全部（一人で）（順番に）言える。
4. （順番でなくても）完ぺきに言える。

※（ ）内は具体的な活動に合わせて文言を調整。

文字のパスポート例

	アルファベット小文字の CAN-DO リスト	達成
3 年	形を見て名前がわかる小文字がいくつかある（大文字と同じ形など）。	
4 年	ほとんどの小文字の形を見て名前がわかる。	
5 年	ほとんどの小文字の名前がわかり、名前を聞いて書くこともだいたいできる。	
6 年	すべての小文字の名前がわかり、名前を聞いて書くことも完全にできる。	

ワークシート例 *

2. 今度、みなさんの学級にアメリカから友だちが来ることになりました。学級で「かんげいの会」をしたいと思います。その友だちからといた手紙を読んで分かったことをもとに、「かんげいの会」では、どのようなことをするとよいか考えてみましょう。

① アメリカから来る友だちは、何という名前でしょう。二つ選んで○をつけましょう。

() May
() My
() Mark

② 友だちの誕生日は毎月何日かな。

月 日



③ 「かんげいの会」では、どんなことをすれば喜んでくれると思いますか。といた手紙の内容と合っているアイデアを2つ選んで○をつけましょう。

- () 体育が好きと書いてあるので、ドッジボール大会をする。
- () ピザが好きと書いてあるので、みんなで作って食べる。
- () ケーキが好きと書いてあるので、ケーキをいっしょに食べる。
- () 音楽が好きと書いてあるので、日本の歌などを教えてあげて、いっしょに歌う。
- () ピアノがひけないと書いてあるので、教えてあげる。

活動と評価の例

小学校学習指導要領では「読むこと」について下の（ア）から（エ）までの活動が位置付けられています。それぞれについて、活動と評価の具体的な方法を学習指導要領の活動例の提案に沿って考えてみました。

小学校学習指導要領「読むこと」の活動

- （ア）活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかや、その文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。
- （イ）活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動。
- （ウ）日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。
- （エ）音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動。

活動例 A （ア）に対応 / 【知・技】

- ① アルファベットカードを使っての大文字・小文字のマッチングや文字並べ、カルタ取りなど、班活動で行うカードゲーム。
- ② アルファベットカードやチャートを使い、読み上げられた文字を友だちと一緒に指さす。
- ③ ワークシートでの大文字と小文字の線つなぎ。

評価の具体例（行動観察・ワークシート分析・振り返り分析）

- ・活動に取り組む児童の様子を観察する。
- ・振り返りシートに書かれている内容を分析する。



活動例 B （イ）に対応 / 【知・技】【思・判・表】

- ① Aと同じ活動を、読み方を発音しながら行う。
- ② 先生の示したアルファベットカードの文字の名称を言う、またその文字が大文字か小文字かを識別する。
- ③ 自分の名前のスペルを他者（ALT など）に伝える目的で紹介する。

評価の具体例（行動観察・パフォーマンス評価・振り返り分析）

- ・活動に取り組む児童の様子を観察する。
- ・振り返りシートに書かれている内容を分析する。
- ・時間に余裕があれば、単元を越え、学期に1回程度、個別にチェックする。

活動例 C （ウ）に対応 / 【思・判・表】【主体的】

- ① 写真付きの本物のメニューから文字を見て注文する。
- ② 友だちが作成した掲示物や英文を見る。（誰でしょうクイズ・行きたい場所など）
- ③ 道案内図を使って道案内の活動を行い、建物や施設などの名前に触れ情報を得る。
- ④ 友だち当てクイズ。（英語の自己紹介カードを見て誰のものを当てる。ワークシート参照）

※いずれも写真や絵など文字以外の情報の入った教材を使う。

評価の具体例（行動観察・ワークシート観察・振り返り分析・パフォーマンス評価）

- ・活動に取り組む児童の様子を観察する。
- ・振り返りシートに書かれている内容を分析する。
- ・文字以外の情報を十分に盛り込んだワークシートを用いて活動し、児童の様子を観察する。

【ワークシート例】

実際に児童が書いた英文をもとにクイズ用のワークシートにした例です。（児童名は仮、内容は一部変更しています。）

活動例 D （エ）に対応 / 【思・判・表】【主体的】

- ・絵本を、複数回読み聞かせをして十分に音声で慣れ親しんだ後、文字を指で示しながら、児童が識別できそうな単語のところは児童と一緒に読んだり絵を指さしたりする。（参考：**「言語外情報を伴って示された簡単な語句や基本的な表現を、児童が文字の音（語の中で用いられている場合の文字が示す音の読み方）を手掛かりに、推測して読むようにする」）

評価の具体例（行動観察・ワークシート観察・振り返り分析・パフォーマンス評価）

- ・活動に取り組む児童の様子を観察する。
- ・振り返りシートに書かれている内容を分析する。
- ・絵本の絵とその中の簡単な語句や表現をマッチングさせるワークシートなどで観察する。

* 国立教育政策研究所 (2020). 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 外国語・外国語活動』 p. 87

** 同上, p. 39



田縁真弓(たぶち まゆみ)

長年小学校現場で指導実践、また京都教育大学、立命館大学など教員養成課程で指導。ストーリーテリングや絵本指導のワークショップを行う。『小学校で英語を教えるためのミニマムエッセンシャルズ』『だれでもできる英語の音と文字の指導』（共著、三省堂）

Tips for Activities!

やってみよう
英語活動

英語を話すオリジナルキャラクターを作ってみましょう。ICT を活用するからこそ出来る、創造性豊かな言語活動です。他己紹介で使う表現の学習にもつながる活動です。

「This is my character!」

使用するもの

- iPad
- アプリ “PhotoSpeak: 3D Talking Photo”

活動

この活動は、ICT を活用し、英語を話す自分だけのオリジナルキャラクターを作成するというものです。キャラクターの設定は子どもたちによって様々。この授業での Key Sentence は “I can ～.” なので、自分が「できること」と関連させて、自分だけのお気に入りのキャラクターを完成させます。本校の子どもたちは “I like” や “I have” などの自己紹介で使える表現はすでに学習した上で本活動を行いました。

①キャラクターの設定を考える。

まずは指導者が作った英語を話すオリジナルキャラクターを示します。その後、自分ならオリジナルキャラクターにどんなことを英語で話させたいかをみんなで出しあい、共有します。このときの単元の Key Sentence は “I can ～.” ですが、子どもたちからは自己紹介で使える “My name is ～.” などの基本的な表現に加え、既習表現である “I like ～.” “I have ～.” などの表現も出てくることでしょう。ここは、クラスや学校の実態に合わせて、表現の幅を限定していただいても構いません。出てきた表現を一通り黒板に書いて共有したら、それらの表現の中から自分のキャラクターに言わせたい表現をワークシートに書き込むように子どもたちに伝えます。

This is my character.

Design	What can you do?
	I can draw pictures.
	My name is Drawne.
	My birthday is October 22nd.
	I like green.

児童が書いたワークシートの例

※ちなみに例に示したキャラクター名は「描く = draw」ことが好きなネコなので「Drawne」というそうです。

②設定に合わせて、キャラクターをデザインする。

キャラクターの設定が終わったら、オリジナルキャラクターを描く時間を設けます。アプリの特性上「目が開いていて」「口が閉じている」キャラクターを描くように伝えてください。

③アプリにイラストを取り込み、オリジナルキャラクターが話すセリフを練習し、録音する。



キャラクターをアプリで取り込み、目と口の位置を設定した後、録音を開始します。(例: Hello. My name is Drawne. I can draw pictures. I like green. ... etc.) 録音したものを共有フォルダなどで共有しておくことで、子どもたちは自由に友だちの作品を見て、さらに使えそうな英語表現を子どもたちが主体的に伝えあったり、間違いがあれば教えてあげたりし始めます。なお、このアプリを使えば、歴史上の人物になって、現在形でお話できたり、友だちになり切ることで、他己紹介を自己紹介にしたりすることができます。3人称や過去形の学習の導入としてもとても効果的です。



実践時の板書例

Teacher Talk

Put your iPads face down (on your desks).

(机の上に、iPad を裏向きに置きましょう)

* お話を聞くときは、いつも iPad を机に伏せた状態にするよう、子どもたちに伝えています。カードゲームで “Please put your cards face up/down.” というクラスルームイングリッシュを使いますが、同じ表現が使えますね。

《その他 ICT ×外国語活動で使えるクラスルームイングリッシュ》

Open the app. (アプリを起動しましょう)

Swipe left. (左にスワイプしましょう)

Record your voice. (声を録音しましょう)



東口貴彰(とぐち たかあき)

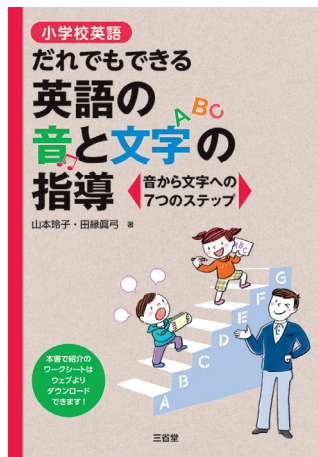
関西大学初等部教諭。元大阪教育大学附属平野小学校教諭。Apple Distinguished Educator。著書に、『小学校英語×ICT「楽しい!」を引き出す活動アイデア60』(明治図書出版、2020年)等がある。また、小学校外国語活動向け英語アプリ「Rabbits えいごで言ってみよう!」(iOS向けアプリ)の開発も行っている。

音から文字へつなげる 指導をしよう！

『小学校英語 だれでもできる英語の音と文字の指導』 山本玲子・田縁眞弓 著

文字の指導が必須となった教科「外国語」。その指導法についての悩みを持つ先生が
たも多いようです。そんな悩みにこたえるべく、現場での実践が豊富な先生お2人が、
ちょっと意識するだけで効果のあがる音から文字への指導の入門書を刊行しました。
ここでは、そのエッセンスをご紹介します。

A5 160頁 1,900円＋税
ISBN978-4-385-36140-6



▶ 音の指導 (第1部)

「聞く」「話す」活動を指導する中で、次のようなことが
らを意識しておくと、文字指導への下地作りになりま
す。活動例もありますので、具体的な指導に応用してく
ださい。

日本語との音の違い

音韻認識

音節

リズム感覚

音への身体性

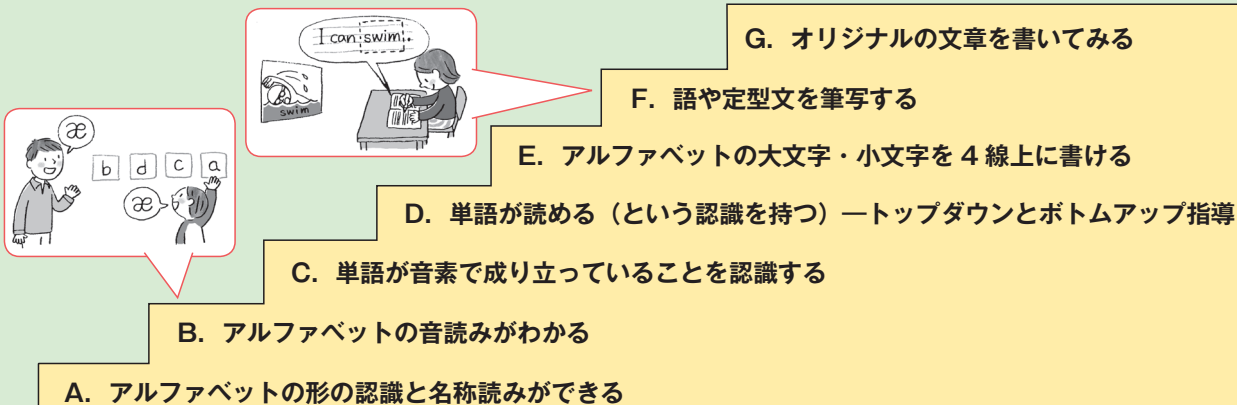
▶ 文字の指導 (第2部)

文字指導の「いまま
で」と「これから」、
ローマ字指導におけ
る訓令式とヘボン式
の意味やそれらをい
かに外国語指導に活
かすか、その両立方
法を具体的に示して
います。明日からの
指導にすぐに活かせ
る内容です。



▶ 音と文字の指導の実際 —KEET メソッド 7つのステップ— (第3部)

英語の文字の「読むこと」「書くこと」はていねいな指導が必要です。そのために、7つのCAN-DOを設定、
音から文字へむりなく移行できる指導の流れを提案します。段階に合わせた実践例を豊富に収録。



本書で
紹介する
ワークシートは
ウェブより
ダウンロード
できます。

著者の先生からのメッセージ

★とことんわかりやすく、かつ理論に基づいている
からこそ納得できる本です。現場で起こったエピ
ソードや現場で聞いた悩みなどをたくさん盛り込
みました。(山本)

★指導例は、実際におこなった授業をもとに先生の
ティーチャートークの具体例も入れています。目
指す子どもの姿が先生方にはっきりとイメージで
きるように書きました。(田縁)



短い時間で、聞いて/覚えて/話せる!! 新しいコンセプトの英単語学習教材!!

\\チャンツとチャンクで身につく/

おとかん
音感

👑 キッズクラウン

場面で話せる英単語 Part 1

下 薫 (マジカルキッズ英語研究所)・三省堂編修所 編



- 約800語の英単語を20のカテゴリで提示
- 英単語は『キッズクラウン英和辞典』をベースに選定
- 音声を単語/チャンクの2パターンでインプット

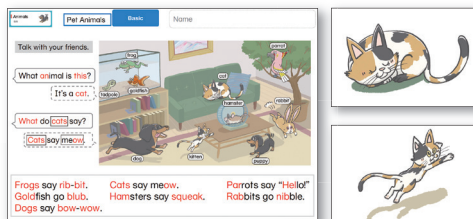
学校内ライセンスなら、校内の教員用・児童用端末に何台でもインストールいただけます!

体験版
お申込みはコチラ

<https://tb.sanseido-publ.co.jp/otokan/>



ライセンス形式	対応OS	価格
学校内 ライセンス (期限なし・台数制限なし)	windows 8.1/10	38,000円 (税別)
	iPadOS 13~	38,000円 (税別)
	ハイブリッド	50,000円 (税別)
学校内 年間ライセンス (購入月の翌年月末まで・台数制限なし)	windows 8.1/10	10,000円 (税別)
	iPadOS 13~	10,000円 (税別)
	ハイブリッド	13,000円 (税別)
シングルライセンス (期限なし・1端末のみ)	windows 8.1/10	4,500円 (税別)
	iPadOS 13~	4,500円 (税別)



三省堂はGIGAスクール構想に全力で対応していきます!

令和2~5年度

CROWN Jr. 5 6

学習者用デジタル教科書／教材



	学習者用デジタル教科書	学習者用デジタル教材
販売価格	300円(税別) ※各学年	500円(税別) ※各学年
ライセンス期間	年間ライセンス	年間ライセンス
ライセンス形式	1ユーザー1ライセンス ※対応OSごとの販売	1ユーザー1ライセンス ※対応OSごとの販売
対応OS	Windows 8.1/10 iPadOS 13~ ※Chrome OS	Windows 8.1/10 iPadOS 13~ ※Chrome OS
基本機能／教材	◎教科書紙面(拡大縮小／書込) ◎機械読み上げ音声(特別支援機能)	◎教科書紙面(拡大縮小／書込) ◎録音音声 ◎機械読み上げ音声(特別支援機能) ◎インタラクティブ教材 ◎モデル動画
録音音声の内容	(録音音声の収録はございません)	◎Panorama(語句) ◎Spotlight(吹き出し) ◎Enjoy Reading ◎Sound Chant/Word Chant ◎Enjoy Listening ◎Words & Phrases

※Chrome OSはWebブラウザ版のみのご提供となります。ご検討の際はご相談ください。
※ご導入環境により、サーバ運用版やWebブラウザ版のオプション版をご提供いたします。
※デジタル教科書ご購入時、ライセンス期間中のデジタル教材へのグレードアップには対応できません。
※年間ライセンスの期間はご注文月の翌年同月末までとなります。

三省堂教科書・教材サイト <https://tb.sanseido.co.jp/>

2020年度版小学校英語教科書サイト <https://tb.sanseido-publ.co.jp/02cjpr/>

三省堂

〒101-8371

東京都千代田区神田三崎町 2-22-14 TEL (03) 3230-9411 (編集)・9412 (営業)